

◆かつて、イエス様は弟子《先週の説教・御言葉》

たちに対して「しかし聖霊があなた方の上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」(使徒の働き 1 : 8)と宣言された。この主の御言葉「宣教拡大」が使徒の働きのテーマであり主題である。今朝のテキストは伝道者パウロの第二回伝道旅行での出来事であり、まさにユダヤ・ガリラヤ地方から小アジア地方を経てマケドニア地方すなわちヨーロッパへと宣教が拡大されて行く大きな出来事であった。

◆シラスとテモテという協力者が与えられたパウロ一行は「アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤの地方を通った。(16:6)」その状況を詳しくはうかがい知る事はできないが、パウロはその伝道の目的地変更を余儀なくされたのである。そこで次にパウロは「ビテニヤのほうに行こうとしたが、イエスの御霊がそれをお許しにならなかった。」(16:7) 一度ならずも二度までもパウロは伝道の目的地変更を強いられたのである。そこで彼らはエーゲ海を挟んでヨーロッパと向かい合う港町トロアスに下るのだが、パウロは幻を見ることになる。

◆パウロが見た幻は「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください」(16:9) というマケドニア人の叫びであった。「パウロがこの幻を見たとき、私たちはただちにマケドニアへ出かけることにした。神が私たちを招いて、彼らに福音を宣べさせるのだ、と確信したからである。」(16:10) パウロはマケドニア人の叫びを通して主の声を聞いたのである。二度も目的地変更を余儀なくされたことも、マケドニアに渡って福音宣教するためであった事を、主の導きを確信したのである。

◆私たちの人生、そして教会の歩みもまた常に順風満帆ではないかも知れない。なぜでしょうか？と主に問いかけたくなることもある。目指す方向や目的地変更を余儀なくされることがある。しかしそのような時にこそ、今その場所にあって主の声を聞きたいのである。主の御言葉を通して主の声を聞くと、主が私をここに導いてくださったことに気付く。例えば私が願っていた方向でなくとも、これから向かうべき道をそしてその先で何をすべきかを確信させてくださるのである。【箴言 16:9 参照】